

実施計画		
カリキュラム名・時間数	実施内容	
1. 職務の理解: 6時間		
(1)多様なサービスの理解	2.5	講義及び演習: 視聴覚教材を用いて、居宅サービス、施設サービス、地域密着型サービスについてグループで話し合い発表する。
(2)介護職の仕事内容や働く現場の理解	3.5	講義のみ
2. 介護における尊厳の保持・自立支援: 9時間		
(1)人権と尊厳を支える介護	5	通信講習のみ
(2)自立に向けた介護	4	通信講習・講義及び演習: 視聴覚教材の事例を基に残存機能を活用した自立、自律支援についてグループで話し合い発表する。
3. 介護の基本: 6時間		
(1)介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	通信講習のみ
(2)介護職の職業倫理	1	講義及び演習: 事例用いて介護職の職業倫理を検討しグループで話し合い発表する。
(3)介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	講義のみ
(4)介護職の安全	1	通信講習のみ
4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携: 9時間		
(1)介護保険制度	5.5	通信講習・講義及び演習: 介護保険制度のしくみや申請から利用までの流れを学ぶ。また、申請から利用までの流れを解り易く伝える作業図をグループで作成し理解させる。
(2)障害者総合支援制度及びその他制度	2	通信講習のみ
(3)医療との連携とリハビリテーション	1.5	通信講習のみ
5. 介護におけるコミュニケーション技術: 6時間		
(1)介護におけるコミュニケーション	3	講義及び演習: 2人1組と3人1組で利用者役と介護者役に分かれて受容、共感、傾聴のロールプレイを行う。
(2)介護におけるチームのコミュニケーション	3	通信講習のみ
6. 老化の理解: 6時間		
(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	講義及び演習: 講義を行った後、老化について3~4人程度のグループで話し合い発表する。
(2)高齢者と健康	3	通信講習のみ
7. 認知症の理解: 6時間		
(1)認知症を取り巻く状況	1	講義及び演習: 認知症の方の感情をグループで考えて発表する。
(2)医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2	通信講習のみ
(3)認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	2	講義及び演習: 事例を用いて認知症の症状を理解した関わり方、対応方法をグループで話し合い発表する。
(4)家族への支援	1	通信講習のみ

8. 障害の理解: 3時間		
(1)障害の基礎的理解	0.5	通信講習のみ
(2)障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1	通信講習のみ
(3)家族の心理、かかわり支援の理解	1.5	講義及び演習: 家族が感じている不安やストレスについてグループで考えて発表する。
9. ころとからだのしくみと生活支援技術: 75時間		
ア 基本知識の学習: 10時間		
(1)介護の基本的な考え方	4	通信講習のみ
(2)介護に関するころのしくみの基礎的理解	3	通信講習及び講義
(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解	3	通信講習、講義及び演習: ボディメカニクスを考慮した安定した姿勢を学び、2人1組で押したり引いたりして、重心移動や支持基底面積の確認をする。
イ 生活支援技術の講義・演習: 53時間		
(4)生活と家事	6	通信講習、講義及び演習: シーツのたたみ方からベットメイキングの方法、利用者が寝ている状態でのシーツの交換の実技を行う
(5)快適な居住環境整備と介護	3.5	通信講習、講義及び演習: スライディングボード、バスボードの福祉用具の使い方を体験する。
(6)整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	衣服の着脱介助、口腔ケアを介護者役と利用者役に分かれて実技演習をする。
(7)移動・移乗に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	車椅子や杖歩行介助、体位変換を介護者役と利用者役に分かれて実技演習をする。
(8)食事に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	ベッド上での食事介助を介護者役と利用者役に分かれて実技演習をする。
(9)入浴、清潔保持に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	入浴介助、足浴介助を介護者役と利用者役に分かれて実技演習をする。
(10)排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	おむつ交換、ポータブルトイレ介助を介護者役と利用者役に分かれて実技演習をする。
(11)睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	4	通信講習、講義及び演習: 快適な眠りを得るための工夫、環境整備について実技演習をする。
(12)死にゆく人に関連したころとからだのしくみと終末期介護	4.5	通信講習及び講義
ウ 生活支援技術演習: 12時間		
(13)介護過程の基礎的理解	6	演習: 事例の居宅サービス計画書やアセスメントからグループで介護計画の立案を行う。
(14)総合生活支援技術演習	6	演習: テキストの事例を用いて、右麻痺の食事介助、車椅子からベッドへの移乗介助や寝たきり状態の更衣介助等を声かけも含め一連のサービスの流れとして実技演習を行う。
10. 振り返り: 4時間		
(1)振り返り	3	演習: (13)の介護計画を基に実際にグループで介護を行う。
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	1	講義のみ
計: 130時間		